



コミコミスク

明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 164

2022

6.22

「地域支援者連携会議」で情報交換！！

「地域支援者連携会議」というのは、コミュニティ・生涯学習課、コミュニティ創造協会、地域社会共生室、社会福祉協議会、そして学校教育課と地域でのまちづくり、地域福祉等に関係する関係機関が3か月に1回集まり、それぞれの活動状況や課題等を報告しながら、情報交換をおこなう会議です。学校教育課もコミュニティ・スクールの推進に向け「地域支援者連携会議」に出席させていただくようになって4年目になります。出席し、情報交換する中で、これまで視野にはいらなかった地域の状況や課題に触れながらコミュニティ・生涯学習課さん、コミュニティ創造協会さん、地域社会共生室さん、社会福祉協議会さんの、地域での役割や動き等を知ることができました。そうした情報交換の中で Well-Being の社会を創る人を育てていくという方向性は同じだということを感じています。

そんな中で今回も面白情報をいただきました。



○その一つが“みんなが生きる『これからの地域防災』のすゝめ”の案内です。まちづくり協議会さんは地域での防災訓練をこれまでもおこなってこれでしたが、学校だけでおこなっていた防災訓練を地域とつながった防災訓練にと考え始めた学校が出てきています。これまで学校がおこなってきた避難訓練や引き渡し訓練が本当に機能するのかと疑問を持たれたのかなと、この案内を聞きながら思いました。予測できない状況に直面したとき、本当に機能し身を守り、助け合うといったことが機能するためには学校の中だけでなく、

地域とつながって考え、訓練するのは必要であり、それが自然な流れなのではと思います。その中で子どもたちは助けてもらう立場だけでなく、自分たちが必要とされていると感じるかもしれません。自分たちの命を守り、互いに助け合えるために何ができるか、何が必要なのかを子どもの視点・大人の視点とそれぞれの視点から考えたことを交流するだけでも違ってくるのではと考えます。そうした中で子どもも大人も当事者として地域防災を考えられるようになっていくのではと考えます。こうした防災を窓口にして地域とつながっていくことも

「社会に開かれた教育課程」を実感することになるのではと思います。興味を持たれましたら QR コードから詳しい情報を。私も勉強してきます。



○2つ目は“つながる本棚「hito-haco」”の情報です。明石コミュニティ創造協会さんが、ウィズあかし（アスパシア明石8階）に個人や企業、団体などが本棚と本を通じて情報発信をしたり（あかし haco）、自分の好きな本で自分らしさを表現したり（わたし haco）できる交流スペース「つながる本棚『hito-haco』」を開設するという情報でした。ネーミングも素敵だなと早速コミュニティ・スクールのスペースを確保させていただきます。（写真：明石コミュニティ創造協会案内より参照）



スペースは確保できたので、次はどんな本を用意しようかなと考えてみました。

まず誰もが読みやすく、これからの教育の方向性に触れるという点で真っ先に頭に浮かんだのが、前田康裕先生の「まんがで知るシリーズ」です。

- ・まんがで知る未来への学び 「これからの社会をつくる学習者たち」
- ・まんがで知る未来への学び2 「教師も変革を起こす時代」
- ・まんがで知る未来への学び3 「新たな挑戦」
- ・まんがで知る教師の学び 「これからの学校教育を担うために」
- ・まんがで知る教師の学び2 「アクティブ・ラーニングとは何か」
- ・まんがで知る教師の学び3 「学校と社会の幸福論」
- ・まんがで知るデジタルの学び 「ICT教育のベースにあるもの」

このシリーズは読みやすく、おすすめです。先生方はもちろんですが学校運営協議会等で読んでいただいて、これからの学校像をイメージしていただくのにも役立つのではと思っています。

そして次にコミュニティ・スクールについての理解を深められるものとして、コミュニティ・スクールの説明と実践例を中心にした本として次の本をリストアップしました。

- ・未来の学校づくりーコミュニティ・スクール導入で「地域とともにある学校」
- ・奇跡の学校:コミュニティ・スクールの可能性
- ・学校も地域もひらく コミュニティ・スクール: 無理せず、楽しく、かろやかに

これらの本も校内だけでなく、学校運営協議会等でも読んでいただき、コミュニティ・スクールの個々のイメージを創り、対話する中でどんなコミュニティ・スクールを創っていくかデザインできればいいなと思っています。

そして最後になぜ「社会に開かれた教育課程」なのか、どうして社会とつながっていくことが必要なのか、これからの時代を生きていくためにはといった視点でリストアップしてみました。

- ・地域学校協働のデザインとマネジメント

コミュニティ・スクールと地域学校協働本部による学びあい・育ちあい

- ・学校と社会をつなぐ!ーこれからの人づくり・学校づくり・地域づくり
- ・ネイバーフッドデザインーまちを楽しみ、助け合う「暮らしのコミュニティ」のつくりかた
- ・LIFE SHIFT(ライフ・シフト)
- ・LIFE SHIFT2: 100年時代の行動戦略

これらの本は人が育つ上で地域社会の大切さや、これからの地域のコミュニティを考える道標になるのではと思っています。これからの社会の在り方や生き方等を考えるなど、教師の視野を広げる上で読まれてもいいのではと思います。

「hito-haco」のコミュニティ・スクールのスペースは「育ちあい・学びあい文庫」とネーミングする予定です。たくさんの市民の方に手に取ってもらい、これからの教育の方向性に関心を持っていただけたらと思っています。各学校でもコミュニティ・スクールの推進に向け、こうした書籍を用意し、多くの方に手に取ってもらえるスペースを校内に創ってみるのも面白いのではと考えます。

こうした話題の他にも地域の中での交流や情報発信としてZOOMの活用やLINEの活用や、まちづくりを進める上での縦割りの打破に向けて等脱線しながらも充実した情報交換がおこなわれました。こうした情報交換の中でいろいろとアイデアが生まれてくると思っています。私は今回いただいた情報の中で、防災訓練を窓口として学校と地域がつながっていく可能性を探ってみたいなと思っています。また、「hito-haco」のコミュニティ・スクールスペースを活用していろいろな人や団体とつながっていかたいなと思っています。

(文責：北本)